

令和8年2月18日

八王子市立清水小学校
校長 荒井 雄一

令和7年度 八王子市立清水小学校 学校経営報告

【 1 令和7年度の振り返り 】

(1) 学力の向上 (重点目標)

① 地域学習の充実

- ⇒・生活科・総合的な学習の時間を中心にして、各学年、体験的な活動を積極的に取り入れ、地域素材を活用した。地域を題材に体験的な学習を導入し、子供たちの興味関心を高めて、探究学習になるように取り組んできた。特に6年生は地域の湧水に着目し、それぞれのクラスで湧水を入り口にして、地域の活性化をテーマにした単元開発を行うことができた。しかし、湧水自体を活用することには限界があることも分かったので、今後どのような地域活性を念頭にどのような展開になるかを検証し、次年度につなげていく。
- ・5年生においては稲作体験をメインにして体験学習を進め、そこから探究学習につなげていっている。しかし、収穫量も少なく、探究の展開も限られていく中で、教員の中からも限界を感じる意見が出されている。今後、学運協やPTCAとも連携をとりながら農作物を育て収穫する活動に終始するのではなく、その先も考えられる活動につなげていけるような計画を作成していく。
 - ・校内研究においても生活科・総合的な学習の時間を中心にして授業研究を3回行った。それぞれに講師を呼び、専門的な見地からの指導を受けることができ、生活科・総合的な学習の時間で育てられる資質・能力について教師が理解を深めることができた。年間計画を見直して、育てたい資質・能力にそった持続的な計画を作っていく。

② 基礎学力の定着

- ・九九の100%習得学習の進捗状況を確認し、各学年が継続して取り組めるようにすることで、2回目の確認テストでは習得率が上がり、効果が出てきている。ただし、50%以下の児童も各学年にいて継続して個別対応の指導が必要である。今後も隙間時間を利用した算数教室や校長室での指導を行っていく。
- ・5・6年生の算数においては3学級5展開の授業を年間を通して行ってきた。八王子市の学力調査委においても、平均得点も上がり、成果が出ている。来年度は3学級の6年生、4年生でできるか検証していく。
- ・OJT主任を中心にして、毎週金曜日の16:15からアップタイムを設定して、若手教員が指導を受けられるような時間を確保した。今後もテーマを明確にした無理のないニーズに合った内容の研修が必要となる。

(2) 人間力の育成（重点目標）

① よりより「あいさつ」の実施

- ⇒・あいさつを活性化させるために、生活指導と特活が共同であいさつ活動に取り組んだ。生活指導面からは「自分から進んであいさつができる清水の子」を目標にして取り組み、学期ごとにより具体的な目標を追加して意識を高めた。特活面からはたてわり班ごとのあいさつ運動を年間で2回取り組めるようにし、1回目から振り返ることで2回目に生かせるようにした。子どもたちの意識は高まっていて、校内でのあいさつは向上している。しかし、地域（安全ボランティア）へのあいさつが不十分な実態もはっきりして、今後の課題が明確になってきている。改善に向けて違ったアプローチも視野に入れながら取り組む必要がある。
- ・教師が率先してあいさつをし、その姿を見せることは大切であり、全教員が取り組めるように今後も継続していく。

② いじめや不登校等に組織的かつ迅速に対応する体制の整備

- ⇒・増加傾向にある不登校児童に対して、不登校対策委員会を新たに設置した。隔週で金曜日のいじめ対策委員会後に実施し、不登校児への対応が担任にだけにならないようにし、委員会の中で実態を共有し、対応策を協議するような体制をとった。その成果として、SSWを不登校対策委員会に招いて、児童に対する対応策を協議し具体的な動きができ、見通しをもつことができた。来年度以降も継続していき組織として対応がとれるようにしていく。また、令和8年度から始まる校内別室登校のシステムを上手に活用できるように、今後、不登校対策委員会や企画会で協議していく。
- ・毎週金曜日6hの「ほっとたいむ」を全教職員で取り組み、各クラスの情報を共有し、その後に、いじめ対策委員会を行い、いじめの未然防止と早期発見早期解決に向けた取組を組織的に行うことができた。今年度もSCに常に入ってもらい、一緒に考え、適切なアドバイスをもらっていて、多岐にわたる対策が練られている。
 - ・大小さまざまな案件があったが、重大いじめ案件はない。
 - ・SNS関係のトラブルがある。今年度もSNSについて考える日を月に1回設定し、メディアリテラシー教育や情報モラル教育を行うことで情報の正しい取り扱いができるようにしてきた半面、SNSに関するトラブルもまだある。今後も継続して取り組んでいく。SCによるSNSに関する授業を4～6年生を対象に行った。
 - ・複数の子ども家庭センターや児童相談所が関わる案件を抱え、関係諸機関との連携を密にして、一つずつ丁寧に対応している。

(3) 学校経営（重点目標）

- ### ① 学校経営計画実現のため、教職員一人一人が自分の役割と責任を自覚し、成果を上げる意識で職務に当たるようなシステムの整備をする。

- ⇒・今年度、企画会を効率的に運用し、学校経営運営のための根幹として機能することができた。どんな課題があがっても、企画会メンバーで対応策を協議し、みんなで方向性を示すことができた。今後も風通しのよい学校経営ができるようにしていく。
- ・月に1回、企画会メンバーに学年主任を加えた拡大企画会を実施し、共有しながら学校経営に取り組めるように組織的に機能できるようになってきた。

② 学級経営力の向上を図る

- ⇒・学年会の充実を図り、お互いにフォローしあえるような関係づくりを目指した。学年によっては意思疎通がうまくいかないこともあったが、拡大企画会等で共有してみんなで取り組めるようにすることで、改善が見られた。

(4) 特別支援教育の充実

① 校内委員会を中心に、特別支援教育の推進を図る。

- ⇒・特別支援教室「みのり教室」の巡回指導教員と連携をとり、校内委員会にも出席し、情報を共有して、特別な支援を要する児童の対応に当たることができた。市の巡回相談の回数も増え、その状況も共有し、保護者へのフィードバックをし、今後の見通しをもって対応できるように話を進めている。

(5) 家庭・地域との連携

① 学校運営協議会及びPTCAの活動と連携した学校運営を進める

- ⇒・毎月行われる学校運営協議会で情報を共有し、学校運営について協議し、PTCAの活動を支持して協力してきた。教職員の理解が高まってきて、今まで以上に要望等も出せるようになってきてはいるが、まだまだ弱く、理解、協力を高めていく必要がある。PTCAの活動を支持し、家庭・地域と一体となって子どもたちの健全育成を推進するためにも、学校として何ができるのかを考えていかななくてはいけない。
- ・学校便りやホームページを通じて学校の情報を発信した。特にホームページには行事の様子はもちろんのこと、日々の授業風景もこまめに更新するように心がけてきた。学校評価の中でも好意的な意見が寄せられている。ただし、校内事情もあってクラスでの様子については更新を控え、学校全体での様子を伝えるようにしている。

② 保・幼・小・中の連携を強化する。

- ⇒・小中一貫教育の取組として、中野北小学校、甲ノ原中学校と3校で授業参観、教員交流を実施した。来年度は市の方針を受けて、内容を吟味して、計画的に実施できるようにしている。
- ・保幼連携では、6月に近隣の保育園・幼稚園を招いて、1年生の授業公開を行った。公開後は交流の時間をとり、児童の情報交換をすることができた。その情報をもとにして児童理解、学級経営に生かすことができ、充実したものとなった。来年度も継続して実施していく。8月に近隣の甲ノ原保育園・なかの幼稚園の教員同士の交流を実施することができた。

③ ブラスバンド部の活動の充実

⇒・新体制となり、演奏会への参加も八王子でのものに集中して行った。地域行事や八王子市のイベントにも参加し経験を積むことができた。今後について清水小ブラスバンド部の目指すものをより明確にして、学校・保護者・地域への周知が必要であり、実施していく。また、持続可能な活動にしていくためにも、保護者・中学生・地域との協力を要請することも検討する。例えば、「新曲の挑戦するので、1週間、譜読みの時間をとります。この間、朝練の手伝いを募集します。」などよく具体的に短期間から始めて、実績を作っていくのもいいのでは。市教委には実情を伝え、持続可能な活動にするためにも金銭的な援助や人材の援助など検討を依頼している。(窓口は志村統括指導主事)何かしらの動きはあるようだが不確かで、今後も強く要望していく。